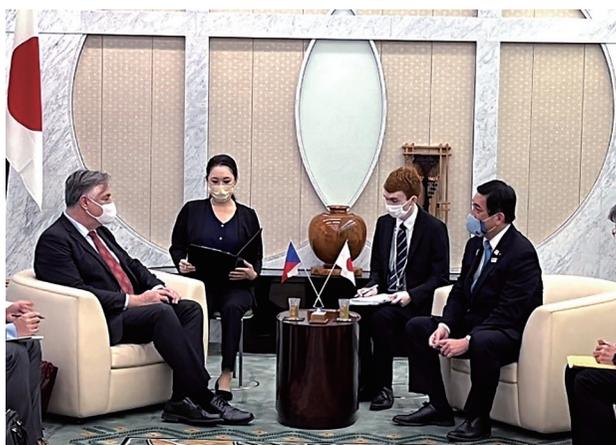


● 鹿児島と諸外国との懸け橋 —— 鹿児島県観光・文化スポーツ部国際交流課

はじめに

鹿児島県は、日本の西南部に位置するという地理的条件から、8世紀に唐の高僧・鑑真和上の上陸地となった坊津、16世紀にキリスト教や鉄砲が伝来した種子島があるほか、江戸末期に薩摩藩が外国人技師を招へいして「尚古集成館」を拠点に産業の近代化を推し進めるとともに、英国に留学生を派遣するなど、歴史的に外国との交流の門戸として重要な役割を果たしてきました。

本県では、こうした地理的特性や歴史的なつながりを生かしながら、香港、シンガポール、韓国全北特別自治道（旧全羅北道）、中国江蘇省、英国、ベトナムなど、世界のさまざまな地域との国際交流を行ってきました。さらに、2024年1月には、台湾南部の屏東県と交流協定（MOU）を締結し、今後、一層の交流促進を図ることとなりました。



駐日チェコ大使による県知事表敬での通訳

鹿児島県の CIR の活動

本県と諸外国との懸け橋

本県では、2024年4月に、韓国出身の国際交流員（CIR）が5年にわたる勤務を終えて帰国し、新たに韓国と中国から1人ずつ CIR を迎えました。現在は、英国・シンガポール・韓国・中国出身の4人の CIR が、国際交



第21回鹿児島・シンガポール交流会議における県内視察での通訳

流課のほか、（公財）鹿児島県国際交流協会で活躍しています。

本県と諸外国との懸け橋となるべく、海外からの賓客や駐日大使による知事表敬および県内視察の際の通訳、県から外国の政府機関・関連団体へ発出する公文・書簡文などの翻訳のほか、外国に興味を持つ県民の皆様と交流するサロンを開催するなど、CIRの活動内容は多岐にわたります。

また、2023年度は、日米協会シカゴ（JASC）主催のオンラインセミナー「ジャーニートウキョウシュウ：



鹿児島県庁18階「かごゆいテラス」にて JASC オンラインセミナーで鹿児島を PR



「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」における国際交流ブースでのPR

カゴシマ (Journey to Kyushu: Kagoshima) で、シカゴの人へ向けて鹿児島県のPRを行ったり、10月に開催された「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」の総合開・閉会式で、全国からの来場者へ向けて出身国や本県の国際交流について紹介したりするなど、これまでにない貴重な機会でも活躍する場面もありました。

メールマガジンで鹿児島をPR

鹿児島県は、雄大な活火山「桜島」や世界自然遺産の屋久島、奄美大島、徳之島といった豊かな自然、鹿児島黒牛をはじめとする多彩で豊富な食材など、世界に誇る「宝物」がたくさんある「南の宝箱」です。

CIRの皆さんは、鹿児島県の「宝物」に触れる時間も大切にしてくれています。

例えば、英国出身のスノーデンCIRは、奄美大島を訪れた際、世界三大織物と称される伝統工芸「大島紬」の泥染めを体験しました。植物からできた染料で染めたハンカチを泥田に埋めて、光沢のあるチョコレートのような色に仕上げるといった伝統技法で製作したそうで、完成した紬の色合いはとても満足いく出来だったとのこと。大島紬のほかにも、島唄、ハブ酒、マングローブ原生林でのカヌー体験、アマミノクロウサギ観察など独



大島紬の泥染め体験

特の自然や文化にふれ、奄美大島の大ファンになったそうです。

このようにCIRが鹿児島県で経験したことや感じたことなどを「国際交流員のコラム」として、本県の最新情報などとともに、多言語（日・英・中・韓）でお届けするメールマガジン「かごしま南の風便り」も配信しており、県民や在外県人会に所属する皆様にも大変好評です。

鹿児島県ホームページでバックナンバーも掲載しております。よろしければご覧ください。



「かごしま南の風便り」はこちらからご覧いただけます

おわりに

このようにCIRの皆さんは鹿児島県の文化を楽しみ、国際交流の表舞台で活躍しています。

その一方で、日本では当たり前のことでも、自国との生活様式などの違いを受け入れられず悩むこともあるかと思えます。そうした場面でも、CIRとその国の文化を尊重できるよう、任用団体の担当者としてCIRと互いに理解を深めたいと考えています。

鹿児島県がこれからも諸外国と深くつながるための懸け橋として、また、鹿児島県の大ファンとして、CIRに活躍し続けてもらえるよう期待しています。